

受講生による発表を中心とした授業づくり

特別支援教育講座・吉松 靖文

1. 授業の概要

1-1 授業の概要

本授業は特別支援学校教員免許状取得の必修科目である。特別支援学校の中でももっとも在籍者が多い知的障害児への教育がどのような過程を経て、現在の教育が確立したか、その変容過程を理解すると共に今後のあり方を展望すること、知的障害児教育の教師が身につけなければならない指導法、学級経営法の基本について理解することを目的に授業を行った。授業で取り扱った内容は以下の通りである。

- 日本の知的障害児教育の現状
- 知的障害児教育の基本理念と目標
- 知的障害児教育の学習指導要領の変遷
- 知的障害児の教育課程
- 指導法（日常生活の指導）
- 指導法(遊びの指導)
- 指導法（生活単元学習）
- 指導法（作業学習）
- 指導法(職場実習)
- 指導法（教科学習：国語）
- 指導法(算数(数学))
- 指導法(自立活動)
- 指導法(交流・共同学習)

1-2 授業外学習促進の取り組み

知的障害特別支援学校の学習指導要領や教育課程及び指導法について、受講生に調べ学習の課題を与えた。それぞれの内容について参考文献をシラバス上で提示した。また、特別支援学校等における知的障害児の指導法の実際について近隣の学校に見学に行くなどの課題を与えた。受講生はそれらを元に授業の中で、発表を行い、みんなで重要な点についての話し合いや確認を行った。

2. 授業評価方法

2-1 アンケート

本授業をはじめこれまで使用してきた授業評

価アンケートを授業の最終回で受講生に対し実施した。これまでの授業と実施方法を変えた効果と課題を明らかにするためである。内容は、教材・授業の進め方・教室設備の適切性、授業意欲・満足度・有用度に関する7項目とDPの達成状況5項目であった。

2-2 結果

結果は図1及び図2の通りであった。全体的にはどの項目も7割以上の肯定的な評価を受けることができた。特に教室設備(項目3)及び授業の有用度(項目8)は全員が肯定的な評価であった。しかし、これまでに比べるとどちらともいえないという回答が増えた。また、理解度(項目7)では1名だけが否定的な評価があった。

DPの達成状況についての7割以上の受講者が肯定的な評価をしていた。一方で、今回は否定的な評価も見られた。

各項目の自由記述からは、受講生が発表した後にディスカッションや教員によるコメント・解説の時間配分に問題があること、各授業のポイントや目標が不明瞭な点があったことなどが指摘された。

3. 総括

従来、本授業は、教員から受講生への知識伝達型の授業であった。今回、学生の主体的な学びを促進するために、調べ学習を取り入れ、受講生主体の授業を展開してみた。概ね、高い評価を受けることができたが、調べ学習の在り方を含め授業の進め方の課題が明らかとなった。次年度は、今回の結果をふまえて、発表のしかたやディスカッションのしかた等を中心に授業改善を進めていきたい。

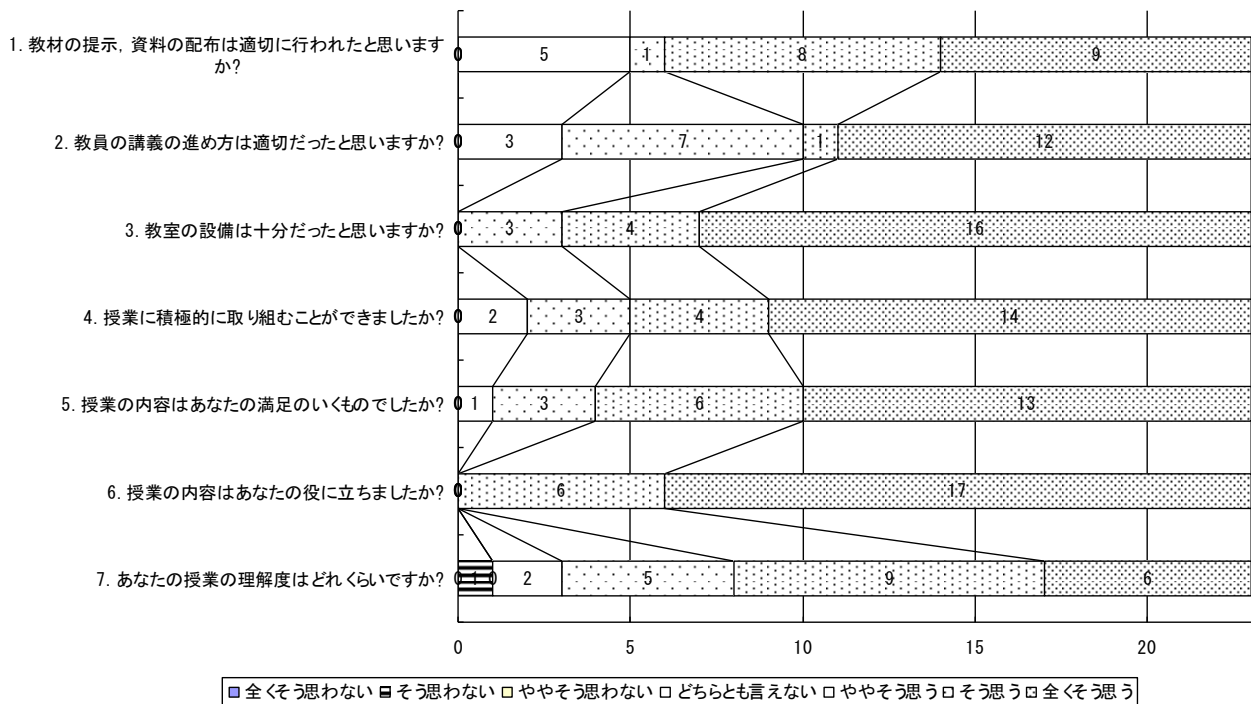


図 1. 教材・授業の進め方・教室設備の適切性、授業意欲・満足度・有用度

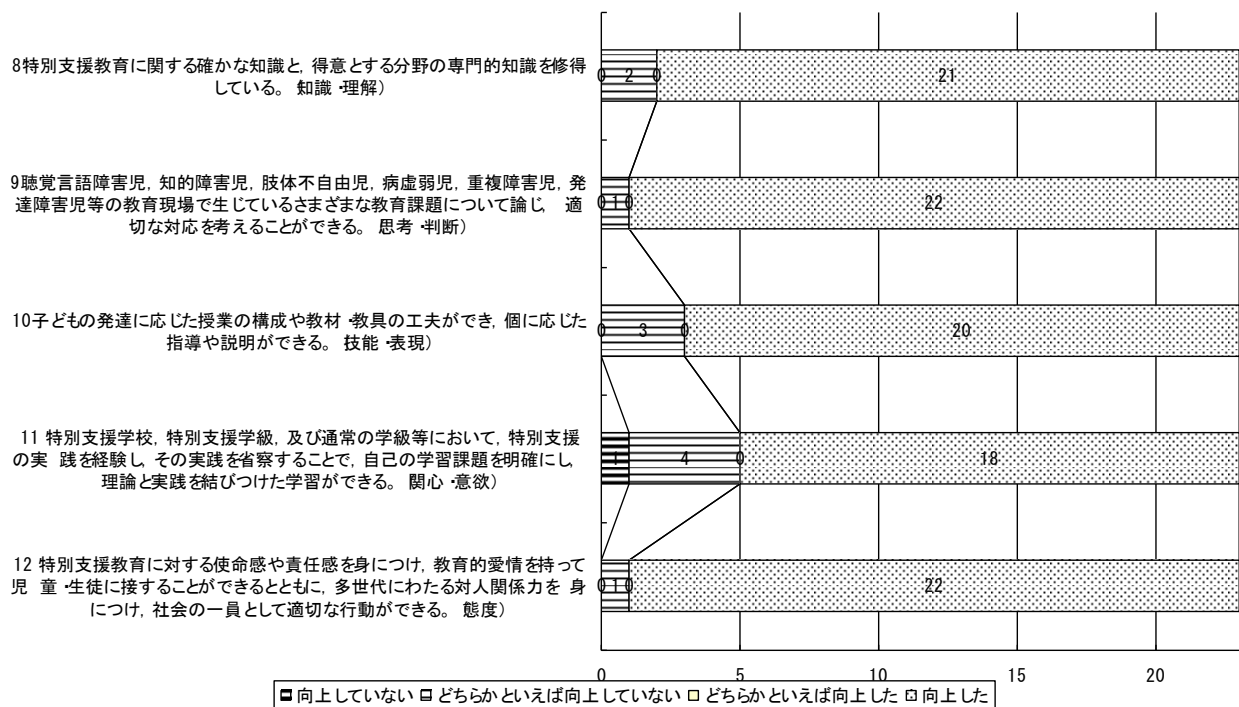


図 2. DP の達成状況